

はすいけ

浄土真宗本願寺派 西蓮寺

寺報第三十八号

平成二十五年 一月一日(祝)

今月の言葉

涙とは

涙を流したら

真実のところに戻れという

仏さまの願いの字



前坊守が往生して、四十九日(一月四日)を迎えようとしています。

左の写真は、お骨を安置していた中陰壇ちゆういんです。正面には「南無阿彌陀佛」とご本尊をおかけしました。

前坊守を偲んで手を合わせば、自ずと「南無阿彌陀佛」が目に入ります。思わず「南無阿彌陀佛」と念仏がこぼれます。

身内の死は、親族にとっては、つらく悲しいものです。しかし、悲しみの中にあるこの私を目当てとして、阿彌陀様は、「必ずすくう」と呼びかけていらつしゃいます。「まことなる仏がここにいるぞ、決して離さぬぞ」と呼びかけています。

人生には、様々な試練がありましよう。避けて通ることのできない事柄も、たくさんあるでしょう。この涙を通して、真実なる仏にあうことができる。

前坊守が往生して、いよいよお念仏を有り難く、いただいております。

(住職記)

親和会、太子講、 仏壮、仏婦の皆様へ 新年会のご案内

日時 1月22日(火)
午後6時、西蓮寺にて
会費 3000円
出欠 1月18日までに、出欠を電話にてご連絡下さい。

住職の裸足

葬儀の時に、私が足袋を脱ぎ素足でいたことについて、後日理由を尋ねられました。

これは、お釈迦様の葬儀の際、後継ぎにあたる子がお釈迦様に敬意を表して、靴をはかずに葬儀を行ったことによります。

私はこの故事にならい、母の葬儀に臨みました。

平成25年(2013年) 西蓮寺年間行事日程

日 時		行 事
1 月	1日(祝) 10:00	元旦会
	4・5日(金・土)	御年始まわり
	12日(土) 9:00	子どもの集い(お正月あそび)
	22日(火) 13:30 18:00	ほのぼの法話会 講師 誓願寺 岩田光哲師 西蓮寺新年会(親和会・仏壮、仏婦、太子講)
27日(日) 15:00	『はじめて学ぶ親鸞聖人』 講師 住職	
2 月	1日(金) 13:30	お経会(1・2月の法語を味わう) 講師 前住職
	9日(土) 9:00	子供のつどい(涅槃会)
	23~24日(土・日)	仏教壮年会結成記念日研修会(箱根湯本)
	22日(金) 13:30 24日(日) 15:00	ほのぼの法話会 講師 住職 『はじめて学ぶ親鸞聖人』 講師 住職
3 月	1日(木) 13:30	お経会(3月の法語を味わう) 講師 前住職
	9日(土) 9:00	子供のつどい
	22日(金) 13:30	彼岸会法要 講師 西法寺 西村信也師
	24日(日) 15:00	『はじめて学ぶ親鸞聖人』 講師 住職
4 月	1日(月) 13:30 上旬	お経会(4月の法語を味わう) 講師 前住職 太子講春季法要
	13日(土) 9:00	子供のつどい(花祭り)
	21日(日) 15:00	『はじめて学ぶ親鸞聖人』 講師 住職
	22日(月) 13:30 28日(日)	ほのぼの法話会 講師 住職 築地本願寺親鸞聖人750回忌法要参拝
5 月	1日(水) 13:30	お経会(5月の法語を味わう) 講師 前住職
	11日(土) 9:00	子供のつどい
	22日(水) 13:00	永代経法要 講師 西福寺 高橋純勝師 仏教壮年会総会
	26日(日) 15:00	『はじめて学ぶ親鸞聖人』 講師 住職
6 月	1日(土) 13:30	お経会(6月の法語を味わう) 講師 前住職
	8日(土) 9:00	子供のつどい
	22日(土) 13:30	ほのぼの法話会 講師 住職
	30日(日) 15:00	『はじめて学ぶ親鸞聖人』 講師 住職
7 月	1日(月) 13:30	お経会(7月の法語を味わう) 講師 前住職
	13日(土) 9:00	子供のつどい
	22日(月) 13:30	ほのぼの法話会 講師 正善寺 熊原博文師
	27日(土) (お休み)	サマーフェスタ IN 西蓮寺(人形説き 安藤聖一師) 『はじめて学ぶ親鸞聖人』

* 仏教壮年会、仏教婦人会の予定は、西蓮寺だよりにてお知らせします。

8月	1日(木) 13:30 上旬 13~16日(火~金) 22日(木) 13:30 25日(日) 15:00	お経会(8月の法語を味わう) 子供のつどい(オテランド) 盂蘭盆会 ほのぼの法話会(ビデオ法話) 『はじめて学ぶ親鸞聖人』	講師 前住職 講師 住職
9月	1日(日) 13:30 14日(土) 9:00 22日(日) 13:30 29日(日) 15:00	お経会(9月の法語を味わう) 子供のつどい 彼岸会法要 『はじめて学ぶ親鸞聖人』	講師 前住職 講師 蓮照寺 松岡満優師 講師 住職
10月	1日(火) 13:30 12日(土) 9:00 22日(火) 13:30 27日(日) 15:00 下旬	お経会(10月の法語を味わう) 子供のつどい ほのぼの法話会 『はじめて学ぶ親鸞聖人』 太子講秋季祭典	講師 前住職 講師 住職 講師 住職
11月	1日(金) 13:30 9日(土) 9:00 24日(日) 15:00 お休み 27~28日(水・木)	お経会(11月の法語を味わう) 子供のつどい 『はじめて学ぶ親鸞聖人』 ほのぼの法話会 報恩講法要	講師 前住職 講師 住職 講師 法栄寺 小林顕英師
12月	1日(日) 13:30 14日(土) 9:00 22日(日) 13:30 18:00 23日(祝) 15:00 31日(火) 23:30	お経会(12月の法語を味わう) 子供のつどい(成道会) ほのぼの法話会 忘年会(親和会、仏壮、仏婦) 『はじめて学ぶ親鸞聖人』 除夜会	講師 前住職 講師 住職 講師 住職

* 日程は変更になることもありますので、
毎月の「西蓮寺だより」でご確認下さい。

平成25年 年回表

回忌	亡くなった年
1周忌	平成24年(2012年)
3回忌	平成23年(2011年)
7回忌	平成19年(2007年)
13回忌	平成13年(2001年)
17回忌	平成9年(1997年)
23回忌	平成3年(1991年)
27回忌	昭和62年(1987年)
33回忌	昭和56年(1981年)
50回忌	昭和39年(1964年)



婦人会の皆さんが編んで
下さった、本堂の座布団。

去る十七日の早朝、前坊守の突然の訃報を聞き、私達夫婦は取るものもとりあえず駆けつけました。

お顔を拝見し、美しく化粧され全く普段と変わらぬご様子に、ありし日の前坊守のお姿が、私の脳裏を走馬燈のように駆け巡りました。

ご存知のように、前坊守は持ち前の物事にこだわらない気つぶのよさと、抜群の指導力をお持ちでした。かつては、洋裁の先生をしていた時期もあり、その後踊りを趣味とされて、お寺の納涼祭の時など先生として指導し、自らも率先して踊っておられました。また一方、人情の厚い人で、門信徒の奥様方の話をよく聞き、よく面倒をみ、皆さんの心の支えになっていたようです。

思い出しますと、私の母が、五年前百歳で亡くなりましたが、お寺の好きな母は亡くなる前、「お寺へ行きたい」と申しますので連れて行きましたところ、「おばさん、よく来てくれたね」と大変に喜んでくれ、そのままいいからということ、大玄関から車椅子ごと皆で運び上げ、湯茶のご接待を受けた時の母の笑顔が忘れられない記憶としてよみがえります。

事ほど左様に、門信徒に対して分け隔て無く接し、お寺の裏方として勤めを立派に果たされておられました。またある時、住職曰わく、物事が逡巡している時「何ぐずぐずしてるの!!」と、大目玉が飛んできそうだとポツリとおっしゃっております。

どうぞ、浄土へ参りましても、たくさんのお友達と、お喋りをして楽しくお過ごし下さい。
最後に一句、献じたいと思います。

化粧けはいして 弥陀みだに抱いだかる 冬の星 ひろし

平成二十四年十一月十七日

西蓮寺門徒総代 吉崎 宏

本日、ここに当山西蓮寺前坊守故艸香みね様のご葬儀にあたり、仏教婦人会を代表して、謹んでお別れの言葉を申し上げます。

故人は、昭和四年一月五日、藤岡市日野の小暮家五女として生を受け、長じて洋裁の講師として公民館事業の一端を、卓越した技能を発揮し貢献されました。

縁あって、ご当山三世住職昭道師のもとに嫁ぎ、自ら深くお念仏のみ教えにたしなむ傍ら、よく前住職を助け門信徒の教化にあたられました。

以来六十年、よく寺門の繁栄に尽くされ、わけても仏教婦人会を結成し、その指導にご尽力をいただきました。ご本人の持つて生まれた明るさ、人柄の良さ、面倒見の良さは、私達門信徒が深く、お慕いするところでありました。

しかしながら、悲しいことに去る九月以来、病床に伏せられ、寺族皆様、特に若坊守の手厚い介護も空しく、十一月十七日八十四歳を一期として、静かに往生浄土の素懷を遂げられました。

このかけがえのないお人を失いましたことは、ご当山の皆様はもとより、私どもにとりまして、誠に悲嘆のきわみでございますが、この別離の悲しみを仏縁としてますます聴聞にいそしみ、お念仏を称えつつ、諸共に浄土への道を歩ませていただきます。

この上は、安養の浄土よりご照覧あつて、ご当山の一層のご法義繁昌のため、かつ私達仏教婦人会の真の発展のため、何卒ご化導下さいますことを念じ、哀悼の言葉と致します。

みねちゃん、あなたのことだから、先にお浄土に行った方たちと、仲良くやっつてるでしょうね。いつもの旅行のよう
に「ほら、西蓮寺に旅行に行くよ！みんなも一緒に行くんだよ」と、先頭で旗をふって、たまには帰ってきておくれね。
待ってるよ。本当に長い間、ありがとう。私たちを浄土から、ずっと見守っておくれね！

平成二十四年十一月十七日

西蓮寺仏教婦人会 初代会長

友人代表 伊澤 敏

群馬組連続研修会を終えて、門徒推進員になった藤原有三さんから、本山の中央教修（3泊4日）の感想をいただきました。

中央教修に参加して

藤岡市立石 藤原有三

組内のお寺を会場に、都合12回、おおよそ2カ月おきに開かれた連続研修会に参加させて頂き、昨年10月終了致しました。続けて全国を対象とした教修があり、参加を本願寺に申し込んで、とのご案内をお寺から受けました。古希も過ぎた小生には如何かと考えましたが、住職曰く『貴重な体験や素晴らしい出会いも想定され、年齢制限は無くなりました』とのお話、躊躇も若干ありましたが、師走の月初め京都まで出かけ本願寺の聞法会館を主な会場とした、3泊4日の教修に参加し、お陰様で無事に終える事となりました。

参加者は北海道から九州までの47名で、数名グループに班別され、スタッフとして僧侶の方々が2名により、ご指導とお世話を頂きました。

阿弥陀堂と御影堂で行われる晨朝参拝は、粉雪の混じった風にも会いましたが、留意して頂いた膝掛けの温もりは、心地よい体感でした。夜 阿弥陀様の前に一人で立たせて頂き、それぞれが決意を述べる時間がありました。半時間ほど無言、会場は僅かな蠟燭の光のみ、僧侶の皆様と受講生の視線を背後に感じるなかでの行動は、仏前での作法も含め、簡単なようで緊張感を伴う未知の体験でした。

会場から一步でると、明るい照明の下、僧侶の皆様から、握手と励ましの言葉を頂き、緊張と安堵感の落差は大きく、ある種の心地よさが今も残っております。会場からの帰り、どなたかが「己が結婚式より緊張した。」と話され、周りは同感の笑を誘う程でした。

受講内容は、基本的で大切な課題で、小生を含め、それぞれの受け止めかたには、多少乖離した部分もあり、担当僧侶を含めた『班別話し合い』とその結果発表、全員参加の『まとめの法話』で理解を深める事になりました。み教えは正しいが、受け取るサイドは如何と法話にあり、聴聞の大切さを改めて認識致しました。担当された僧侶は皆さん、若い世代とお見受けされ、受講者の関係は、心の内を思いのまま話し合う場もて、わだかまりの残らない所となりました。

同室の皆さんは、ご配慮からか同年輩、半世紀以上昔の出来事など、アルコール無し楽しい就寝前の時間が持てました。

最終日の朝のお齋は、国宝の書院で、過去から大事に保全されてきた漆塗りの朱の御膳で頂き、美味しく刺激的でした。体感的な冷気を含め感動と、同じ思いの方々と過ごした出会いは得難い時間となりました。

この中央教修は、今回で222回を数え、受講者は9000名丁度、同じ経験をしたお仲間が全国に、大勢おられ心強くも感じる事ができました。

惰性で過ごさせて頂いているような小生の背中を押して頂いた住職、本願寺で真摯に接し担当して頂いた15名の僧侶の方々、門徒推進員となられた2名の先輩、皆々様に感謝致しております。